

2025.11.13

第55回九州ブロック社会教育研究大会（福岡大会）第3分科会

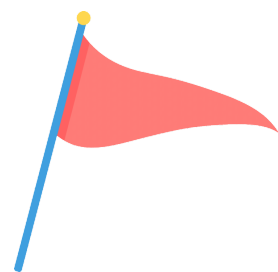
誰もが学び続けることができる、  
学びたくなる環境づくり  
デジタルやSNS等を活用した取組



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構

代表理事 秋山 翔太郎



# 自己紹介



あきやま しょうたろう

**秋山 翔太郎**

特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構／代表理事

佐賀市市民活動プラザ／プラザ長

CSO経営支援事業部

地場産品ブランディング支援事業部

1986年福岡市生まれ。2004年佐賀大学へ進学。2009年在学中、放置自転車の再生活用を行う環境団体を創設。CSO活動のきっかけとなる。

その後、市民コミュニティ財団や地域IT企業を経て、2014年に佐賀県CSO推進機構に入職、2022年より佐賀市市民活動プラザプラザ長を務める。

年間70件以上の団体設立、資金調達や協働に関する助言、組織力強化のための研修企画立案の他、行政や団体のオンライン配信を支援する。

社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会／評議員

特定非営利活動法人フードバンクさが／副理事長

佐賀市社会教育委員

佐賀市スマートサイトシティ推進協議会

# 組織紹介

## 特定非営利活動法人 佐賀県CSO推進機構

自立した県民が支え合う社会を創るため、支縁組織、地縁組織、地域産業組織、企業、行政等に対してパートナーシップの構築等に関する事業を行い、もって公益の増進に寄与することを目的とする。

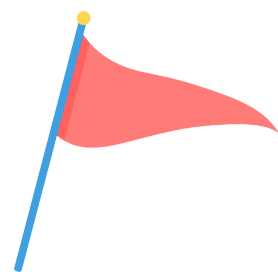
団体設立：平成16（2004）年10月22日

法人設立：平成17（2005）年10月19日

### 事業部一覧

- 佐賀市市民活動プラザ・CSO経営支援事業部
- 佐賀県庁行政の窓口事業部
- みやき事務所（健康づくり）
- ピカピカリンクヘルプデスク
- 地場産品ブランディング支援事業部





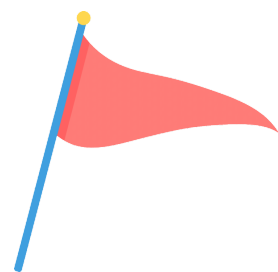
# 事例発表：熊本県宇木市市長政策課・地域おこし協力隊 「eスポーツ×デジタル拠点施設 うきのば」

## 内容のメモ

- 小川支所のスペースを有効活用
- 県内初のeスポーツ公共施設、三者連携
- 市内外住民の利用が可能
- イニシャルコストは企業版ふるさと納税とふるなびクラウドファンディング
- 60代以上の利用28.4%
- 現場で取り組むのは地域おこし協力隊、eスポーツ元年から取り組んだ歴あり
- 全年齢対象にしたデジタルデバイス解消
- 地域おこし協力隊の任期は今月末まで
  - 外部委託の形式で副業OK
- 新しい風を入れ、デジタル教育
- 熊本の学園に参加し、SNSが話題に、こどもの成績を保護者にどう伝えるか

## フィードバックやご提案

- 企業版ふるさと納税でIT拠点の同様事例
  - 例：高鍋町中央公民館ITセンター
    - 祖父母と孫のダブルス大会
    - 孫世代から高齢者の巻き込み
- 市外からの集客51.4%、市内の認知度（年代別）は？
- 教育の情報单元、論理思考への好循環は？
  - マイクラでAIを作った人
  - スマホでゲームをつくるプログラミングアプリ「Springin'（スプリングイン）」
- 紀伊さんとチームの今後は？後継は？新任者？
  - 残った方が2年引き継ぐけども...
- 動画編集の講座参加者が主体で「うきのばチャンネル」を開設してみては？
  - 例：おごおりチャンネル



# 事例発表：佐賀県唐津市・NPO法人唐津市子育て支援情報センター 「いつでも、どこでも、何度でも学べる環境づくり」

## 内容のメモ

- NPOとして感じる課題に取り組んだ経緯
  - 3～4名が100名以上の活動へ
  - 山口さんは2004年設立以来センター長
- 国、県、市の委託事業、自主事業
- 親子のふれあいと相談機能に力点
  - 親育ち、家庭教育支援
- 行政放送TVの20年、1週間放映、安心感へ
- 従来情報で届かない層へ発信
  - サテライト厳木→平日1,300人
    - 電力会社の協力でeスポ、ドローン
  - YouTube開設
    - 情報発信の分析の結果
    - TVを持たない層に届ける
  - 部門毎のInstagram発信（その場でのストーリーズ、編集したリール動画、共同投稿）

- 中学校で子育てサロン、中学生の家庭科
- サロンはオンラインZoomも実施
- AI活用で佐賀大とタイアップ
  - 抱っこ姿勢判定アプリ「AI抱っこ」
- 子育ての伝承、いつでもどこでも何度でも

## フィードバックやご提案

- 活動100名の内訳に過去の利用者は？
  - 親育ちの先に
  - 継続は力、支援される側からする側へ
- 支援者の質と対応力を山口さん以外に育むために行なっていることは？
- 対象者の閲覧状況の市政アンケートを実施は？
  - 施設の認知度、HP、SNS、TV、新聞？



# 質疑応答



## 宇城市のメモ

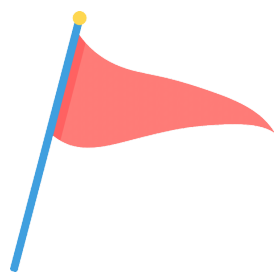
- うきのば成功要因と他地域への展開
  - 行政の目の届かない範囲での独立活動
  - ある程度の自由さとスピード感
  - ワクワクするものを提供すること
  - 携わる人の能力値、外部との協力関係
  - プログラミング教室は他と組んでいる
- 教育の観点からあと一歩取り組むために
  - 最初の1年は場づくり
  - 2年目は外の動きを把握するために学校へ
    - きっかけがあれば
- SNSの活用は？
  - 市内のための施設であるため、積極的に活用しているわけではない
  - 来所者に公式LINE登録を依頼
  - Googleビジネスで外国人利用も



## 唐津市のメモ

- 大人の教育、こどもの防災講座で保護者伝える必要性、保護者の意思の変化は？
  - 安心できる場、助かった、しんどい思いをしている人を助きたい、働く人に
  - 育ちあい、支援者も
  - 支援と依存の課題、自立への伴奏が必要であるため、支援者の質を
- 情報の格差問題、格差がなくなった？先は？
  - 一番は口コミ、チラシ、回覧板、児童会
  - センターに来てよかった、安心できる場
  - 橋渡しの役割を担う
  - 支援が届かない方へのほっとカフェ
  - フードバンク、自立支援センター、関係機関と連携

•



# 番外編：質疑応答や討議で思いついたこと（2）

## 内容のメモ

- 情報リテラシー、選択・活用能力
- 教育機関でのSNS活用の範囲（コロナ禍を経て情報伝達はどう変わった？）
  - 安心安全メールのお知らせで紙面ほぼ0
  - 大事なことは連絡帳と家庭訪問
- （宇城）ボランティアに関わってもらいながら、生徒主体の活動も提案、ボラ証明書で生徒の将来のためになっている
- （唐津）厳木夏祭り、自分たちで参加したいかと意思確認、何をしたいか、大人は見守る
- 自主運営の強みを生かす
- SNSのDMも大事な連絡ツール

## フィードバックやご提案

- 見守る→主体性を育む伴奏
- インターネット上の情報は、AIの進歩とともになかなかアクセスされなくなっている
- AIが相談相手になっているケースがあることを受け入れる（恋愛相談の結果、結婚も）
- ルール設定をしたAIでSNS投稿内容を推敲
  - 上長に稟議をかけるより早いことも
- 申し込みはフォームに一元化する
  - チラシのQRコード
  - 申込書もフォームに打ち込む

| 比較             | 熊本県宇城市                                                                                               | 佐賀県唐津市                                                                                                                 |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 運営主体           | 行政（宇城市）が主導の官民連携でイオンモール、eスポーツ協会等と連携協定を締結                                                              | NPO法人唐津市子育て支援情報センターが主体かつ官民連携で子育て支援センターを運営                                                                              |
| ターゲット          | 全ての世代（子どもから高齢者まで）                                                                                    | 子育て中の親子（特に母親）                                                                                                          |
| デジタル活用<br>の主目的 | 拠点の創出：高機能PCやeスポーツで人々を物理的なデジタル拠点に集め、交流と学びを提供                                                          | 支援のアウトリーチ：SNSやZoomを活用し、情報を届け、オンラインで関係性を構築・維持                                                                           |
| アプローチ<br>モデル   | プル型（プロジェクト基盤）：eスポーツやVR体験など魅力的な施設・イベントで利用者を物理的な場所に惹きつける（市外の集客51.4%）                                   | プッシュ型（コミュニティ基盤）：SNS等で利用者に向けて能動的に情報発信し、オンラインコミュニティ（LINEチャットなど）を形成                                                       |
| 活動拠点           | 新設の物理的拠点（小川支所内）「うきのば」が活動の中心                                                                          | 既存施設（りんく）をベースに、オンライン空間（SNS、Zoom）で切れ目のない支援を継続                                                                           |
| 成功要因           | <ul style="list-style-type: none"><li>行政運営の信頼性と、常駐スタッフによる手厚い人的サポート</li><li>ふるさと納税活用による資金調達</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>利用者ニーズに寄り添った活動開始2004年<br/>以来の活動実績</li><li>SNSの積極活用（参加契機Instagram55.6%）</li></ul> |

## 多角的な地域課題の 解決

(熊本) eスポーツでデジタル  
デバイド解消、多世代交流、交  
流人口拡大を同時に目指す。  
(佐賀) オンラインアウトリー  
チで子育て不安解消や家庭教育  
支援など複合的な課題に対応。

## ステークホルダーとの 協働

行政やNPOが中心となり、企  
業（イオン/eスポーツ協会）、  
学校、専門家（助産師など）と  
積極的に連携・協働。地域全体  
で学びや支援を推進する新しい  
モデルを実践する。

# 事例発表に導かれる共通キーワード

## デジタル基盤の 積極活用

高性能PCやVR（熊本）と、  
SNS/Zoom（佐賀）などのデジ  
タルツールを活動の基盤として  
積極採用。情報発信や継続的な  
学びの提供を実現。

## ハイブリッドな 支援体制

対面式の公設拠点での交流や相  
談機能と、Zoom等によるオンラ  
インアウトリーチを組み合わせた  
体制を構築。これにより、い  
かなる状況でも支援を切れ目な  
く継続可能とする。

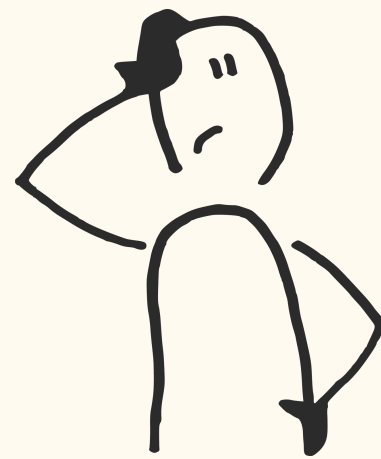
## 心理的・物理的な 垣根の低減

公設による信頼感や原則無料の  
提供（熊本）。またはオンライ  
ンによる「いつでも、どこで  
も」のアクセス提供（佐賀）に  
より、利用者が活動に参加しや  
すい障壁を低くしている。

# 🔍 両事例に『2つの観点』

リアルと  
オンラインの  
導線設計

市民性と  
自発的な市民を  
育むプロセス



1

# ターゲットの行動変容を『デザイン』する

● 認知

● 関心・共感

● 行動・申込

● 体験（当日）

● ファン化

● 拡散

オンライン ← → リアル体験

チラシ  
地域回覧板  
看板・掲示板  
ポスティング  
新聞・TV  
イベント出展  
口コミ

対象は  
誰か？

説明・報告会  
体験・見学会  
個別相談会  
講演会・発表

必要な情報は  
分かりやすい  
か？

窓口・電話受付  
地図・駐車場

一過性になら  
ない次の一手  
は？

交流タイム  
ワークショップ

リアル会場

継続的な  
関係を築  
けるか？

会員登録  
会報・DM登録

参加・利用者を  
行動の当事者に  
できるか？

口コミ依頼  
紹介カード  
紹介特典  
取材記事

SNS発信  
ブログ発信  
Webサイト  
ネットニュース  
ネット広告  
SEO対策  
Gマップ登録

活動紹介動画  
参加者の体験記事  
追加情報の記事  
QAページ

申込フォーム  
(QRコードから流入も)  
リマインドメール

オンライン

チャット機能  
ブレイクアウト

LINE登録  
メルマガ

開催レポート  
SNSシェア  
#ハッシュタグ  
参加者による記事

接触点は  
どこか？

対象はリアルと  
オンを往来する

アンケートは？

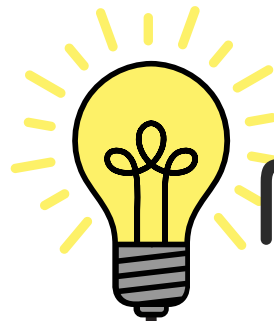
体験者の満足度  
はどうか？

誰かに話したくな  
る体験だったか？

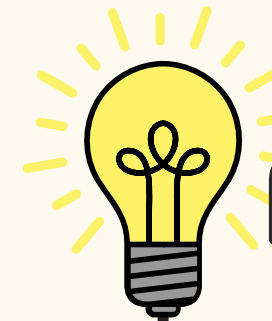
当事者として活動するコミュニティ・チーム化

2

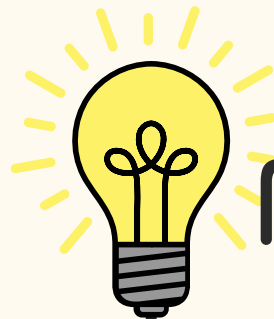
## 市民性と自発的な市民を育む『4つのポイント』



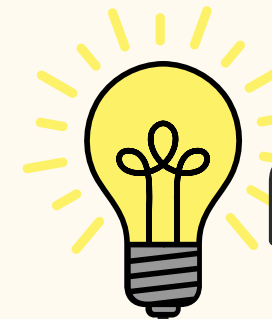
「利用者」から  
「当事者」へ



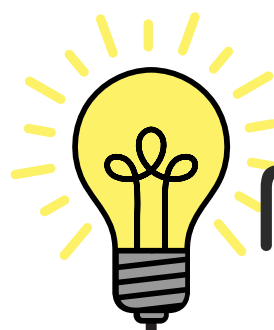
「集う」から  
「つながる」へ



「やってみたい」を  
「やってみる」へ



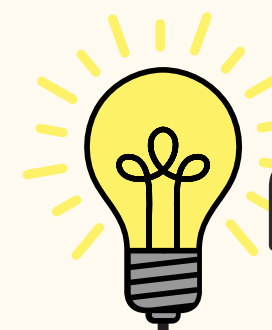
「貢献」の可視化と  
称賛



## 「利用者」から 「当事者」へ

- 両事例の出発点：宇城市は「場」の提供から、唐津市は「情報とつながり」の提供から、市民のニーズに応えている。
- 提案：サービスを楽しむ「利用者」から、活動を共に創る「当事者」への意識転換。
- カギ：市民が関与できる「関わりしろ（余白）」を意図的に設ける。
  - 宇城市：物理的な「場」の運営や企画に参画できる余白。
  - 唐津市：コミュニティ内で参加者が主体的に発信・企画できる余白。

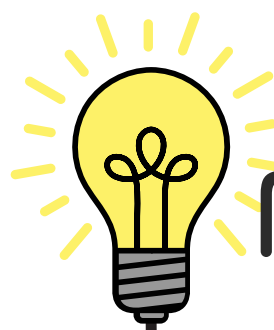
「私のための場所／情報」から「私たちの手で育てる共有の場／コミュニティ」へ。



## 「集う」から 「つながる」へ

- アプローチの違い：
  - 宇城市（プル型）：物理的な「場」に集ってから、つながりを育む。
  - 唐津市（プッシュ型）：オンラインで「つながって」から、必要に応じて集う。
- 本質的な目標：孤立を防ぎ、社会的関係資本（コミュニティの土壌）を育むこと。
- 仕掛け：協働が自然に生まれるプログラムを設計する。
  - 例1：イベント共同企画（こどもも）
  - 例2：オンラインでのピアサポート

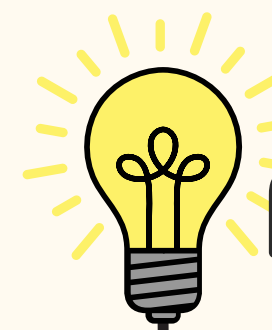
リアルとオンラインの往還を通じて、関係性をより強固にする。



## 「やってみたい」を 「やってみる」へ

- 参加者の「やってみたい」という自発性の芽を、具体的な行動に繋げる。
- 支援者の役割：行政職員やNPOスタッフは、「伴走支援者（コーチ）」としてサポートに徹する。
- 機会の提供：
  - 宇城市の例：利用者によるイベント企画・運営を公募し、協力隊が伴走する。
  - 唐津市の強み：参加者の中から「家庭教育支援リーダー」を養成し、新たな担い手を創出する。

市民による「企画・運営への参画」こそが、最高の社会教育の実践の場となる。



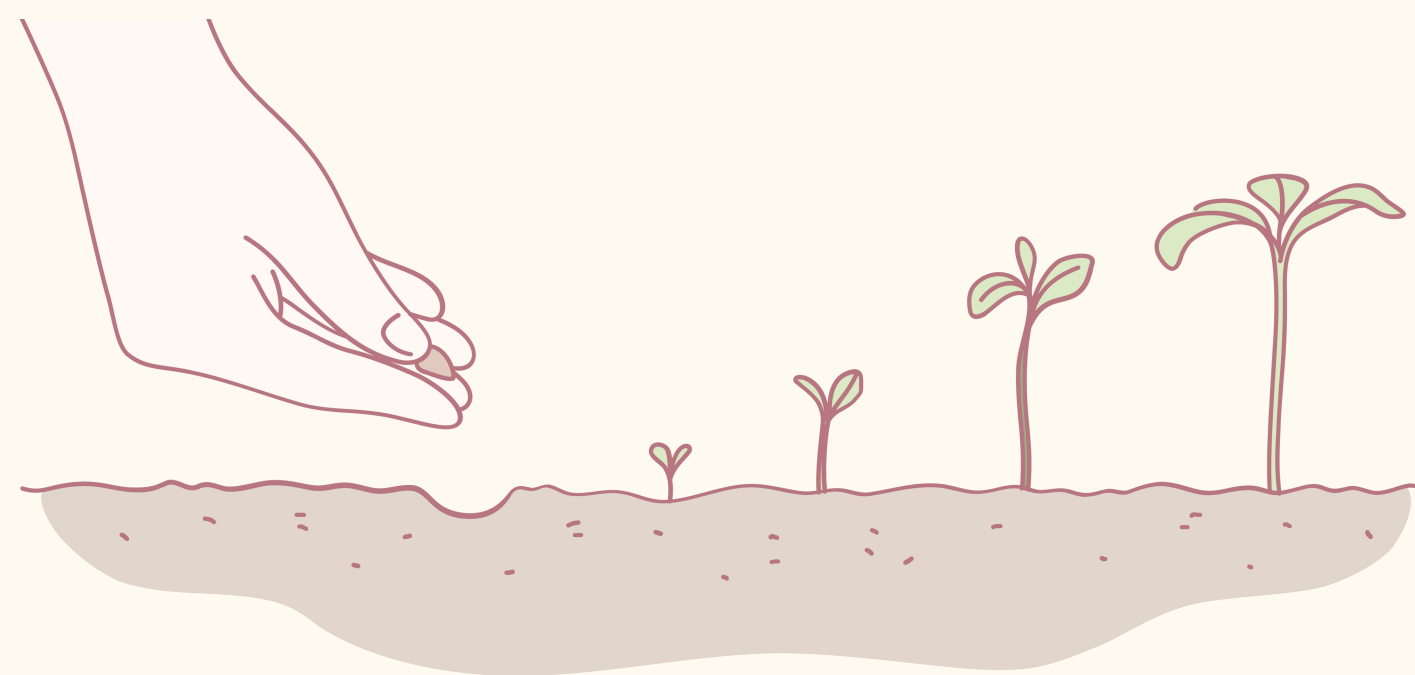
## 「貢献」の可視化と 称賛

- 自発的な行動の継続には、自身の「貢献」が可視化され、実感できることが不可欠。
- 貢献の多様性：
  - イベント企画のような大きな貢献だけでなく、オンラインでの小さな情報共有や励まし合い（ピアサポート）も重要な「貢献」であると位置づける。
- 文化の醸成：参加者による大小さまざまな貢献を、運営が積極的に拾い上げ、感謝と承認の文化を育む。アンバサダー制度。

ポジティブな循環が、個人の自発性をコミュニティ全体の力へと高め、新たな市民リーダーを育成する。



これからも共に  
明日の市民を育む社会教育に  
取り組んでまいりましょう



Thank you!

皆さまとのご縁に  
心から感謝いたします



特定非営利活動法人

佐賀県CSO推進機構

秋山 翔太郎